

最終ステージ 自分の「色」で

エンディングノートに注目

亡くなった病に伏した「エンディングノート」が注目され、注目の場面に備え、家族への伝言や治療方針、葬儀・埋葬方法などをあらかじめ書きおく「エンディングノート」が注目されている。生前や学歴、職歴などの基本情報▽家族・友人の連絡先▽希望する葬儀の方法

遺言書や遺産相続に関する書籍も売れている。

ジュンク堂書店福岡店(福岡市)では、昨年出版された「磯野家の相続」(1575円、すばる舎)が人気。遺産相続の基礎知識や方法、遺言書の書き方などを国民的漫画「サザエさん」に登場する磯野家をモデルに、親しみやすく解説している点が好評という。

このほかの売れ筋は、「家族のために学ぶ愛情相続」(1575円、西日本新聞社)▽「想いが通じる 遺言書と生前三点契約書のつくり方」(1575円、日本実業出版社)▽「いちばん役立つ 相続まるわかり」(1365円、自由国民社)など。相続や遺言は法律的で難しい印

相続関連本も続々



よく売れているという遺産相続や遺言書の書き方の解説書

象があり、イラストや図を使って分かりやすく説明している本が人気という。主な購入者は50代以上で、売り場担当者「誰もが必ず直面する問題なので、早めに準備する人が増えている」と話す。

相続コンサル専門会社が登場 福岡市

三好不動産(福岡市) 産鑑定士など、必要に応じて、不動産などに関する「相続の相談が増えた」と話す。江頭寛社長によると、「相続で自分の死後に家族をもめさせたくない」と生前に相談に来る人が増えているという。

相談は無料だが、遺産相続や遺言書作成などの場合は有料。弁護士や行政書士、税理士、不動産鑑定士など、必要に応じて、不動産などに関する「相続の相談が増えた」と話す。江頭寛社長によると、「相続で自分の死後に家族をもめさせたくない」と生前に相談に来る人が増えているという。

葬儀は簡素化の傾向

民間調査会社の帝国データバンクが実施した全国の葬儀業者(2190社)調査によると、葬儀の式典を簡素化する傾向が強まり、減収となる業者が増えている。2009年度決算では、減収企業が前年度比13・7%増の751社に増え、増収企業は同19・4%減の551社に減った。背景には景気低迷に加え、価値観の変化から家族葬など身内だけで葬儀を営む人が増えたことがある。式典自体の小規模化や祭壇などの簡素化で1件あたりの単価は減少している。帝国データバンクは「大手スーパーなど他業種から新規参入が増えていることもあり、顧客獲得が激しくなっている」という。

万が一に備えて自分の「最期」の迎え方を考える人が増えているという。残された遺族に自分の思いを伝える「エンディングノート」などの関連本が相次いで出版され、「自分好み」と有田焼のおしゃれな骨つぼも静かなブームに。遺産相続のコンサルトを手掛ける専門会社も登場している。納得できる「最期」をサポートする商品やサービスを紹介する。

(川合秀紀、永松英一郎、黒石規之、座親伸吾)

骨つぼ商品化相次ぐ 有田焼業界

死後も美しくありたい。そのため、佐賀県有田町の伝統的な骨つぼの商品化が相次いでいる。そんな顧客の声に応え、統廃業、有田焼業界では、



「鳳凰」の絵柄が描かれた色鮮やかな深川製磁の骨つぼ



草花の絵柄が上品な香蘭社の骨つぼ

深川製磁では「長命壺」という骨つぼを販売している。ふた付きの円筒形で、サイズは大(高さ21cm、直径18cm)と小(高さ17cm、直径14cm)の2種類。絵柄は色鮮やかな「龍と鳳凰」など3種類あり、いずれも

骨つぼの商品化が相次いでいる。深川製磁では「長命壺」という骨つぼを販売している。ふた付きの円筒形で、サイズは大(高さ21cm、直径18cm)と小(高さ17cm、直径14cm)の2種類。絵柄は色鮮やかな「龍と鳳凰」など3種類あり、いずれも

納得経済楽